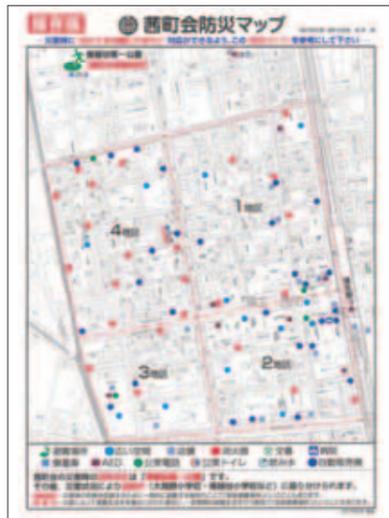




特集

Q1 災害時にどこに避難したらいいのかわからない

A1 避難場所を表記した茜町会防災マップを作成しました



茜町会防災マップ

自治会以外のクラブやサークルへ有料で貸し出しも行って、自治会館の運営に充てています。

蒲生茜町にある茜町会では、地域住民から「災害時の避難場所がわからない」、「避難場所までのように行けばいいか知りたい」などの声が挙がっていました。平成27年5月に、万が一の災害に備えて、少しでも地域住民の役に立てばと茜町会防災マップを作成し、配布しました。茜町会防災マップには、避難場所のほか、備蓄倉庫の場所やAEDの設置場所なども表記しています。毎年開催している茜町自主防災訓練では、茜町会防災マップを確認しながら避難誘導訓練や炊き出し訓練を行うなど、住民どうしが協力し合う機会を作っています。茜町会防災マップを配布したことで、「災害時にどこへ避難すれば

いいかわかり助かりました」、「避難経路を家族と話し合っただけでは、防災意識が以前より高まりました。また、自治会館の活用にも力を入れていています。3世代の交流の場として開催している秋祭りや餅つき大会のほか、喜寿と古希をお祝いする喜寿・古希祝賀会などを開催しています。



毎年12月には餅つき大会を開催します

茜町会

Q2 駅から距離がある地域でも通勤通学などを便利にしたい

A2 自治会加入者が利用できる最寄り駅までのシャトルバスを作りました



シャトルバスは多くの自治会加入者が利用します

川柳町にある朝日プラザ自治会は、平成5年から自治会活動を開始したマンション自治会です。現在、433世帯が居住しており、370世帯が自治会に加入しています。「公共交通手段が少ない地域なので、最寄り駅まで向かうのが大変だ」という声が住民から寄せられました。そこで平成6年から、マンション管理組合がグローバル交通と契約し、2台のシャトルバスによる朝日プラザJR武蔵野線南越谷駅の運行が始まりました。平日の朝・夕は15分おき、昼は30分おき、休日には平日の半分の本数で運行しています。バスの運営費には、通勤定期券販売による収入のほか、バスのラッピングによる広告収入などを充てています。シャトルバスの運行は朝日プラザに居住するメリットの一つです。シャトルバスの運行により「朝の通勤が便利になりました」、「通学する子どもを安心して送り出せるようになった」など、住民に喜ばれています。自治会内で住民の意見を取りまとめ、自治会の予算の範囲内で解決策を編み出した事例です。

朝日プラザ自治会



シャトルバスの定期券



ここからは、住民が感じた悩み事や疑問を解決するため、市内の自治会や自治会連合会等が取り組んだ事例を紹介し、こちらで紹介する事例は数ある自治会活動のなかの一部です。地域の自治会がどんな活動をしているのか、これを機に確認してみたい方は15ページを参考に自治会に加入しましょう。

各自自治会では、特色ある活動を行っています。まだ自治会に加入されていない方は15ページを参考に自治会に加入しましょう。

Q1 災害時にどこに避難したらいいのかわからない P11へ

Q2 駅から距離がある地域でも通勤通学などを便利にしたい P11へ

Q3 子どもや高齢者が安心して暮らせる地域を作りたい P12へ

Q4 いざというときに住民どうしで協力できる体制を整えたい P12へ

Q5 自分たちが住む地域をきれいになりたい P13へ



Q6 イベントを開催するための場所が狭いから参加しにくい P13へ

Q7 地域をまたぐ用水路をきれいになりたい P14へ

Q8 地区に愛着を持ってもらえるような取り組みを始めたい P14へ

特集

身近でつながり助け合う自治会の活動を見てみよう

Q5 自分たちが住む地域をきれいにしたい

A5 ごみ拾いや草取りなど地域の環境美化に取り組みました

鯛之島自治会



水路や線路周りのごみを回収しています

下間久里にある鯛之島自治会では、地域住民から「水路周りにごみが落ちていて汚れている」、「空き家の周辺に草が多くて困っている」などの声が挙がっていました。そのため、平成15年から、地域の水路や線路周りのごみ拾い活動を実施しています。水路周りのごみを拾うことは、地域の環境衛生を改善させるだけでなく、雨水の排水機能を維持することにもつながります。また、空き家や高齢者世帯の住宅などの草取りや枝のせんていを手



毎月第2・4金曜日には町内を回り資源回収をしています

伝うことで、蚊や蜂などの害虫を発生させない環境を作っています。住民からは、「地域を歩いていて、落ちていたごみをあまり見かけなくなりました」、「清掃活動を通して近所の方と会話するようになり、知り合いが増えた」など、喜ばれています。そのほか、毎月第2・4金曜日の資源回収日には、自治会の部会である華クラブの有志が町内を自転車やリヤカーなどで回り、古紙やアルミ缶の回収を実施。困っている人がいれば助けるといふ共助の意識を大切に、地域の団結力を高めています。

Q3 子どもや高齢者が安心して暮らせる地域を作ってほしい

A3 登下校時の見守りや高齢者への声かけ運動をしました

蒲生旭町自治会



登下校時は地域で子どもたちを見守ります

蒲生旭町にある蒲生旭町自治会では、地域住民から「小学校の通学路に交通量の多い道路があり、事故が起きないか不安だ」、「一人暮らしの高齢者が孤立しない環境にしてほしい」などの声が挙がっていました。平成15年4月から、小学生の登下校時の見守り活動を行っています。交通量の多い交差点では、急いで駅に向かう自転車利用者が多く、登下校中の子どもを列を横切ることがあるため、交通整理をしています。また、班長が近隣の高齢者へ声かけをし、地域で見



70歳以上の人を招いて開催する敬老祝賀会

守る仕組みを作っています。これらの活動により「子どもが安心して登下校できる環境を整えてくれて助かります」、「一人暮らしで地域とのつながりがあり、無かったけど、今は一人じゃないと実感できます」などの声があり、広い世代が暮らしやすいと思える地域になりました。そのほか、自治会館では敬老祝賀会を、蒲生旭町公園ではラジオ体操などを開催しています。子どもの見守り活動や高齢者が交流する場を設ける活動を通して、誰もが笑顔で過ごせる地域づくりを力を入れています。

Q6 イベントを開催するための場所が狭いから参加しにくい

A6 広場を作り、イベントに参加しやすい環境を整備しました

宮本町四丁目自治会



→新設した広場でイベントを開催

宮本町にある宮本町四丁目自治会では、地域住民から「イベントを開催するための広場が狭くて、イベントに参加しにくい」などの声が挙がっていました。そのため、平成24年に、宮本町四丁目自治会館前に新しく通路を設置しました。今では、設置した通路でチューリップの栽培を行っているほか、餅つき大会やラジオ体操などを行う広場としても活用しています。また、広場周辺の一斉清掃を行い、周辺の環境を保つように努力しています。広場の完成により、「イベントがたくさん開催されるようになったので、毎回家族



毎年4月にはきれいなシバザクラが咲きます

で参加しています」、「イベントを通して近隣の人たちと会話するようになりました」など、若い世代が自治会の活動に参加するようになりました。そのほか、若い世代がもっと自治会活動に参加してもらうきっかけづくりとして、夜間パトロールの時間を夕方に変更し、子どもたちにも参加してもらっています。また、北越谷にある神明橋付近の土手にシバザクラを植える活動なども環境部役員を中心にを行っています。今後は、自治会の活動内容を知らってもらうためにかわら版を発行するなど、関心を持ってもらうための取り組みを行っていく予定です。

Q4 いざというときに住民どうしで協力できる体制を整えたい

A4 数軒ごとに班を編成し、細分化した自衛団を組織しました

越谷ファミリータウン自治会



応急救護訓練では住民どうしの交流を図っています

赤山町にある越谷ファミリータウン自治会は、8階建てマンション4棟からなるマンション自治会です。管理組合と協力して、環境衛生、防犯防災活動などを行っています。中でも、自治会と管理組合が共同で組織する自衛団が特徴的です。棟ごとの団長と自衛団員によって組織され、全体を自衛団本部長が統括しています。各棟では、数軒ごとにブロック(班)を作り、自衛団員はブロック内現況票により、各部屋の居



敬老祝賀会の様子。喜寿、米寿の方に記念品を進呈しお祝いをします

住者数、高齢者や幼児の人数、災害時要援護者の有無を把握しています。ブロック内現況票は自衛団員と棟団長が管理していて、防災訓練の際には、実際にこの票を使ってブロック内の住民の安否、負傷者の有無を取りまとめ棟団長、そして自衛団本部長に報告します。また、敬老祝賀会や隣人会、シルバークラブの月例会や20のサークルの活動等により高齢者の交流を積極的に行って、集会所を有効に活用しています。

